



環境大臣賞(市民部門)

伊藤 哲郎

活動テーマ：本物感のあるESDで未来の環境リーダーを育てる

表彰理由:SDGsを念頭に多様な組織と連携して、市民生活と海洋プラスチック問題との関わりを発信するため、連携NPOと「海の環境しらべ隊」を結成、小中学生を対象に市民活動としてマイクロプラスチック調査をした。

また、生態系を正しく理解するため、鈴虫の飼育や外来魚の生息調査を実施したほか、尾瀬の植生を鹿から守る「おぜしかプロジェクト」と連携して特別支援学校で革加工品を製作。市民公開講座等により「本物感のある」誰ひとり取り残さないESD（環境教育）を推進している。

1. 自己紹介

神奈川県出身。東京都中央区の建設会社に勤務、建設工事における生態系リスクの回避に取り組んでいる。(公財)日本自然保護協会「自然観察指導員」。SDGs達成のために必要な生活、行動の変革の正しいあり方を情報発信している。

2. 環境カウンセラーとしての活動

活動地域は東京都、神奈川県。中央区の児童館の「まちの生き物の先生」として各種イベントを企画・運営、二人の娘とも協働しながら次世代の環境リーダーを育成している。正しい情報を得て、サステナビリティの論議に加わる子供たちの育成を自らのミッションと考える。

3. 活動紹介

活動① 海洋プラスチック問題への取り組み

NPO「チームくじら号」と連携、小中学生の課外活動支援として、海岸でのマイクロプラスチック(MPs)調査を体験。流出、劣化・細粒化メカニズムを学び、MPsの比重試験からその殆どが海底に沈降している現実、生態系への影響を学習する。



写真1:「うみの環境しらべ隊」活動風景(横浜)

活動② 川魚調査と水槽内の生態系ピラミッドの探求

学校での学習知識を基礎に池の生態調査を実

施、外来生物の侵入状況を学ぶ。捕獲した在来魚を児童館で飼育、水槽の中に目に見えない生態系に気付く。水槽の水を電子顕微鏡で観察する事により、水質浄化メカニズムを理解、その学習成果を市民公開講座で発表、学習インセンティブを高める。



写真2:「川魚PJ」の学習成果発表会の風景

活動③ インクルーシブ(共生)教育支援

SDGs推進の観点から、尾瀬湿原の害獣駆除で発生した鹿革を有効活用する「おぜしかプロジェクト」と連携、特別支援学校の生徒さんが講師となって革工芸を指導しながら命の尊さも学習する。



写真3:特別支援学校生が講師の革工芸教室

4. 今後に向けて

SDGs達成には、私達の生活や行動の変革が必要となる。引き続き多様な専門家や地域と連携、本物感のあるESDを目指す。育てさせて頂いた環境リーダーには、順次バトンを託したい。娘たちとの連携も継続していきたい。